

令和4年4月、大空小学校と大空中学校が統合し、「大空学園義務教育学校」が誕生します。

開校に先立ち、昨年末に新校舎を見学する機会がありました。陽光の光が射し込む、明るい教室。子どもたちの視線で使いやすいように工夫された棚や収納スペース。トイレの壁には在校生が考案し、自ら装飾した可愛らしい模様。そして、広々とした風通しの良い空間に、蔵書を見やすく整えた書架や閲覧席がゆったりと配置された図書室も、読書好きの私には印象に残りました。

教育の質の向上はもとより、小学校から中学校に進学する際の環境変化に順応できない、いわゆる「中一ギャップ」の解消などを目指して制度化された小中一貫、9年制の義務教育学校。今では、全国各地で導入されるようになりました。帯広市では、大空地区での

設置に向け、2年前からPTAや地域住民の方々との協議を重ねてきました。

昭和42年に団地造成が始まった大空地区は、上下水道や道路、公園、学校、商店街など、生活に必要な機能が集積し、昭和55年のピーク時には2613世帯、9111人の住民が暮らしていました。同世代の人たちが、マイホームを一齐に新築したことなどにより、つながりの強いコミュニティができてきたこともこの地区の特色ですが、時代の経過とともに、少子高齢化や施設老朽化の波が一気に押し寄せた地区ともいえます。

しかしながら、近年、老朽化した公営住宅の建て替えや新たな宅地開発が進み、若い世代が転入するなど、新たな動きが見え始めてきています。

こうした中、大空地区でスタートする帯広初の義務教育学校。6・3年制から4・3・2年制の新しい形となる大空学園では、弾力的なカリキュラムの編成が可能となり、専門教科の先生からの授業や異学年との交流機会が増加します。さらに、地域交流スペースが学園内に新設され、地域住民とつながる場も生まれるなど、これまで以上に、さまざまな出会いや体験の創出効果も期待されています。

計画的に街区整備が行われた整然かつゆとりを感じられる街並み。そして、「帯広の森」が隣接する緑豊かな環境に加えて、歴史を重ね育まれてきた地域への愛着やコミュニティなど、コロナ後に人々が重視するであろう「大切なもの」が存在する大空地区は、新しいステージに入り、改めて注目されるのではないかと考えます。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

変わりつつある 大空地区

帯広市長 米沢 則寿



昭和42年に団地造成が始まった大空地区は、上下水道や道路、公園、学校、商店街など、生活に必要な機能が集積し、昭和55年のピーク時には2613世帯、9111人の住民が暮らしていました。同世代の人たちが、マイホームを一齐に新築したことなどにより、つながりの強いコミュニティができてきたこともこの地区の特色ですが、時代の経過とともに、少子高齢化や施設老朽化の波が一気に押し寄せた地区ともいえます。

しかしながら、近年、老朽化した公営住宅の建て替えや新たな宅地開発が進み、若い世代が転入するなど、新たな動きが見え始めてきています。

認知症に関する情報をお届けします!

ロバ隊長便り



こんにちは! 僕「ロバ隊長」です。

認知症サポーターキャラバンのマスコット。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの先頭を歩きます。



問い合わせ

地域福祉課 (市庁舎3階、☎65・4113)

認知症の人を支えるご家族へ～悩みを話せる場所～

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、共に暮らす家族などの身近な人による支えが欠かせません。しかし、少子高齢化や共働き世代の増加により認知症の人を支える家族などの悩みも変化してきています。

市ではそうした認知症の人を支える家族などのために、ボランティアが中心となり『認知症・家族の集い「茶話会」』が開催されています。参加者同士で不安や悩みを共有できるほか、地域包括支援センターの職員に専門的な相談もできます。予約不要ですので、気軽にご参加ください。(次回の開催は、下記をご参照ください)



今日は、『認知症・家族の集い「茶話会」』にお邪魔して、会に参加した感想と、運営しているボランティアさんの想いを聞いてみたよ!

【母親の介護をしている参加者】

会に参加し、介護をしてきた先輩と話すことで、認知症の母親に対する心配ごとはもとより、介護に取り組む自身の不安な気持ちも和らぎました。

【運営スタッフの皆さん】

言いたいことを言ってスッキリして帰ってもらい、そのような会を目指して取り組んでいます。会に参加して話すことで、介護に対するちょっとしたヒントや自信が得られるかもしれません。ぜひ、気軽にご参加ください。



認知症・家族の集い「茶話会」

介護を終えた人も参加可能です。

日 3月24日(木)、13時30分～15時

場 グリーンプラザ(公園東町3)

¥100円



参加者や運営しているボランティアさんの生き生きとした表情が印象的だったよ。認知症の人を支える人も、安心して暮らせるまちをつかっていきたいね!

OBIHIRO CAMERA REPORT

オビヒロ カメラレポ



厳冬期に被災したときの備えはありますか。1月下旬に開催した「防災グッズ展」では、暴風雪への備えや冬の災害時に役立つポータブル石油ストーブなどの防災用品を展示しました。



市ホームページにも「冬の災害に備えるパンフレット」などを掲載しています。3月でもまだ寒い十勝・帯広。各家庭でも改めて、季節に合わせた備えを確認してみてください。(1月25日、市民ホール)

利用マナー啓発のため、図書館で「本が泣いています展」を開催しました。



汚れや水濡れ、一部が切り取られた状態などで返却された図書約50冊を展示。展示された本の多くは、今後貸し出しができないほど損傷しています。



担当者は「本を汚してしまったら、早めに相談してほしい」「必要なページがあればコピーなどで対応できる場合もあるので、気軽に声を掛けて」と呼び掛けていました。

図書館の本は、次の利用者のことを考えて丁寧に扱きましょう。(1月27日、図書館)

市政のお知らせを放送しています

◆テレビ 市役所だより(OCTV 11ch) 毎日4回放送していて、市ホームページからもご覧になれます。

◆ラジオ(毎週月・水・金曜日) おびひろタウンインフォメーション(FM-JAGA77.8MHz)9:15～9:20 おびひろ広報メモ(FM-WING76.1MHz)9:30～9:35

広報おびひろの感想を聞かせてください

最後まで読んでいただきありがとうございます。よりよい広報紙にするために「こうした方が読みやすい」など皆さんの感想をお聞かせください。

問い合わせ 広報広聴課(市庁舎3階、☎65・4109、FAX 23・0156、Eメール report@city.obihiro.hokkaido.jp)